

# CITY

大阪市立大学広報誌



# UNIVERSITY

Vol.23  
February 2017

## CONTENTS

### ●P1 特集1

熱い先生と熱いメンバーで現代社会の課題に全力で立ち向かう!

## 商学部・経済学部 ゼミナール特集

### ●P3 特集2 イベント紹介

●上方文化講座2016特別編 人間国宝が語る人生論「苦勞のすすめ」

●サイエンスアゴラ2016

### OCU TOPICS

●P5 Research / 山野 恵美 特任助教 (医学研究科)  
吉田 大介 准教授 (都市防災教育研究センター / 創造都市研究科)

●P6 Education / 「オムロンコトチャレンジ」で  
オーディエンス賞を受賞 ほか

●P7 Researchers / 滋野 由紀子 教授 (経済学研究科)  
西上 治 准教授 (法学研究科)・品田 哲郎 教授 (理学研究科)

### ●P8 @ Campus

第66回银杏祭を開催

平成28年度 顕彰式典を開催

大阪市立大学オリジナルどらやき“いちどら”を販売  
ほか

### ●P10 大学サポーターだより

### OCU INFORMATION



# 熱い先生と熱いメンバーで現代社会の課題に全力で立ち向かう！ 商学部・経済学部 ゼミナール特集

## 商学部

### “採用”について ひたすら考えた3日間



大阪市立大学  
OSAKA CITY UNIVERSITY



### 商学部プロジェクトゼミナールで、(株)サイバーエージェントと地方採用について熟考！

平成28年11月18日(金)～20日(日)の3日間、商学部のプロジェクトゼミナール<sup>\*1</sup>(担当:山田仁一郎教授)が、株式会社サイバーエージェント<sup>\*2</sup>より採用育成本部シニアマネージャー小澤政生氏を招き、「地方採用に革命を起こせ」をテーマに集中ワークショップを行いました。

(株)サイバーエージェント  
小澤政生氏

山田仁一郎教授



学生たちは今回のワークショップまでに新潮選書服部泰宏著『採用学』を輪読し、基礎知識は習得済み。4チームに分かれ、「実力主義型終身雇用の確立」を目指し、マルチエントリー方式など、さまざまな採用活動を繰り広げているサイバーエージェントの社員になったつもりで、優れた地方人材を採用するための新たな仕組みを提案しました。

#### ※1:プロジェクトゼミナール

文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(通称現代GP)(平成19年度から21年度にかけて採択)で実施していた、学生がビジネスの現場と向き合うことで「自ら課題を発見し、解決する能力を高める」教育を現在も継続して実践しているものです。

#### ※2:株式会社サイバーエージェント

1998年設立。インターネット広告事業、Amebaをはじめとするメディア事業を主とする企業。マルチエントリー採用など、ユニークな採用方法で注目されています。

山田教授や小澤氏より会社や採用の現状と課題について説明があり、ワークショップのルールと発表形式や評価ポイントを提示。



自分で敷いたレールを歩く！

「自分のこんな人生の学び方もあるぞ！」を争う。  
※実業家(小澤氏)によるフィードバック。  
※参加者が実地に実行するまで進められる。

●ポイント

①現職前の高校生が対象！

②信用色一切ゼロのイベント！

③地方のファンを増やせる！



チーム みどりの窓口



チーム ハットリくん



チーム F.C.キッカーズ



チーム 萌(めばえ)

優勝！

学生たちは合計18時間という短い時間で、地方採用を増やすために解決すべき問題点を発見し、討論を繰り返しながら解決策を考え、プレゼンテーションに向け準備。

プレゼンテーションは①課題設定、②解決策の革命ポイント、③役割分担という観点から審査。審査の決め手は革命の大きさ！

今回のワークショップは、企業にとって採用がどういう意味を持つのかを、学生からの目線だけでなく、採用側の目線で考えるよい機会に。



優勝は、チーム萌<sup>めばえ</sup>。地方での知名度を上げ、ファンを増やすことが大事だと考え、高校生に注目。あえて高校生向けにイベントをするという斬新さが、革命として大きい、と評価されました。また、特別賞はチームみどりの窓口。学生団体の長にコンサルをするというアイデアはすぐに取り入れられそう、と評価されました。





実社会との交流を重視する「考える実学」を基礎に、時代を見通せる能力の育成を目指す商学部。

既存の領域やフレームワークを超える問題に挑戦し、新しい時代を切り開くエコノミストを育てる経済学部。

両学部の特徴である少人数ゼミを密着取材しました。情熱あふれる授業の様子をダイジェストでご紹介します。

## 経済学部



大阪市立大学  
OSAKA CITY UNIVERSITY



徳島県



神山町

# 合言葉は“現場主義” 学生と地方自治体による協働研究

## 県・町とタッグを組み、神山の地域づくりについて徹底調査!

経済学部の松本ゼミナール(担当:松本淳准教授)13期生は、4月から徳島県の協力のもと「地域活性化」「地方創生」の先端に行く町として有名な神山町の地域づくりについての調査研究を続けてきました。



6月に行った1回目の現地調査では、先行研究のサーベイでは知ることのできない今の神山町の魅力について知ることができました。



宇野 大地さん



月岡 璃々子さん



山田 隆太さん



川野 真由さん

和田 隆さん

兒玉 彩佳さん

現地調査後も、文献調査はもちろん、徳島県庁・神山町・本学の3点を結んだテレビ会議システムを用いて打ち合わせするなど協働研究を続けました。



11月15日(火)・16日(水)には再び現地に赴き、現地で働く人々や神山町の創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を実行する一般社団法人「神山つなぐ公社」などに聞き取り調査を行いました。



重田 加奈子さん



竹田 隼起さん



村瀬 彩音さん

### 現地調査で聞くことができた神山町関係者の声

つなぐプロジェクトは住民のニーズをふまえ「実行できる計画」にこだわり策定しました。 神山つなぐ公社代表理事 榎谷 学さん



自分の生き方と町の在り方がリンクしたことで、当事者意識を持ってプロジェクトにかかわることができました。 豆ちよ 千代田 孝子さん

神山町の環境だからこそ、自分のしたいことを実現することができたのだと思います。 川口映像事務所 川口 鑑子さん



12月7日(水)に梅田サテライトで行われた三商ゼミ討論会において、私たちの調査結果を報告しました。



境 祐貴さん



坪田 真奈さん



中木 省吾さん



1年間、学生に「自分の頭で考える」ことの重要性を何度も伝えてきました。ゼミの活動を通して「現場を見ること」の大切さを実感してくれたと思います。現地訪問では徳島県および神山町の多くの方々から本当にお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。



経済学部 准教授 松本 淳

### 松本ゼミの まとめ

前期の調査で、移住者・住民をはじめさまざまな人たちが自由に活気ある活動を行っていることが見えた。さらに後期の調査で神山町役場をはじめ当事者意識を持った行政・企業・住民が「町をつなぐ」ための環境づくりやプロジェクトを実行していたことがわかった。神山町は地方創生にとどまらない無限の可能性を持つ町である!

### お世話になった 徳島県職員の方から

徳島県地方創生推進課 課長  
平井 琢二さん



現場主義。松本ゼミと徳島県の共通項です。地方創生モデル「神山町」現地で2度の調査を敢行され、鋭い感性のもと報告書をまとめ上げたゼミ生の皆さんの実践力に、日本の将来への大きな可能性を感じました。またぜひ、「進化する神山町」、「一歩先の未来へ行く徳島県」の現場にお越しください! 私たちも挑戦し続けます!

徳島県地方創生推進課 新未来創造担当室長  
長谷川 尚洋さん(神山町駐在)



現地調査は夏・秋を合わせて4日間と限られた期間の中、綿密な事前調査や関係者への丹念な聞き取りに基づき、神山町のまちづくりを「新しい公共」という切り口で証明された皆さんの手腕に脱帽です! 多様な視点からアプローチし、真理を探求する「松本ゼミズム」を胸に、皆さんが、今後もご活躍されることを期待しています!



上方文化講座2016 特別編

# 人間国宝が語る人生論 「苦勞のすすめ」

対談

人間国宝 竹本 住太夫 × 大阪市立大学長 荒川 哲男

平成28年10月19日(水)、杉本キャンパス田中記念館ホールにおいて、上方文化講座2016特別編 人間国宝が語る人生論「苦勞のすすめ」を開催。ゲストに人間国宝 竹本住太夫師匠をお招きし、これまでの苦勞話や大阪の活性化、健康寿命の延伸などについて荒川哲男学長と対談を行いました。



**師匠** 市大が上方芸能に力を入れてくれていることを本当に嬉しく思っています。文楽技芸員はもっと頑張らないといけませんね。私はもう舞台には上がらないですが、今でも文楽の夢をよく見ます。引退してもなお、

このような対談に呼んでいただき光栄です。荒川学長とは、14年前に診察していただいたのが縁で今日に至ります。



竹本住太夫師匠

**学長** そうなんです。月に一回、診察させていただいております。世界広しと言えど、人間国宝である住太夫師匠のお腹を触ることができるのは奥様と私だけではないでしょうか(笑)。私は平成28年4月に本学の学長に就任し、「笑顔あふれる知と健康のグロー

カル拠点”をスローガンに掲げています。まさに住太夫師匠はその見本のような方だと思っています。私も師匠のように元気に年を重ね、健康寿命を延ばせるようにしたいですね。実を言うと、私は希望して大阪市立大学に入学したわけではありません。でも、卒業時には「この大学で学べて、恩師と出会えて本当に良かった」と心から思いました。ですので、大学に入った動機はどうか、今いる場所で夢と誇りを持つように頑張りたいということを学生に伝えていきたいです。

**師匠** 私は若い頃、覚えが悪くてよくお師匠さんに怒られていました。稽古に行くのが嫌やなあと思うこともよくあったんですが、稽古が終わると「来てよかったなあ」と思うんです。「好きこそものの上手なれ」とはよく言ったもので、やっぱり好きにならないと、何事もう

まくいかないものです。文楽は大阪発祥の素晴らしい文化です。大阪には良い文化がたくさんあり、大阪弁もその一つです。私は大阪弁しか喋れません。海外に行っても大阪弁、浄瑠璃も三味線の節付けも大阪弁なんです。ぜひ皆さんにも、大阪弁を大切にしてくださいね。



荒川哲男学長

**学長** 私も大阪生まれ大阪育ちで大阪をこよなく愛しています。大阪を良くすることが日本を良くすることだと思って、今後も力を尽くしていきます。本学を大阪の知の拠点・健康の拠点として、高齢化などの社会問題に取り組み、それらを解決できるように産学官で連携していきたいと考えています。(トーク内容より抜粋)



文学部の取り組み紹介  
(左から小田中章浩教授、久堀裕朗准教授)



会場の様子



対談終了後に笑顔で握手を交わす2人



# サイエンスアゴラ

Science AGORA

2016

2016年11月3日(祝・木)~6日(日) 東京

「つくろう、科学とともにある社会」をビジョンに掲げ、東京・お台場地域で開催された科学技術振興機構(JST)主催の科学フォーラム。4日間で8,000名を超える来場者がありました。本学からは、医学研究科細菌学教室と都市防災教育研究センター(CERD)が企画を提供しました。



## 大阪市立大学 大学院医学研究科 細菌学

Osaka City University Graduate School of Medicine Department of Bacteriology

当教室では、感染症の蔓延・拡大を防ぐための対策に日々取り組んでいます。その一環として国立感染症研究所、株式会社ノウションと共同で、細菌の種類や感染症の原因となる病原体について楽しく学べる「バイキンズワールド2016」を企画。身近な感染症やその予防法・治療法、耐性菌について掲載したパネル展示や、アイテムを手に入れてバイキンズと戦うタブレットゲーム、立体的な菌の写真や画像を3Dメガネを使って観察するなど、分かりやすいコンテンツを提供しました。参加者には細菌学教室の金子幸弘教授がデザインしたオリジナルトレーディングカードをプレゼント。一番人気はハイエンキューキン王のカードでした!



バイキンズワールド2016のブース



タブレットゲームに挑戦中の来場者

タブレットゲームの勝利画面



参加賞のオリジナルトレーディングカード

ハイエンキューキン王のカード

Teamバイキンズのみなさん(医学研究科細菌学の金子幸弘教授(右から2番目)と臨床感染制御学の掛屋弘教授(中央))



## CERD 大阪市立大学都市防災教育研究センター

Center of Education and Research for Disaster

2011年3月11日に発生した東日本大震災から5年が経過しました。この大震災は「いのち」の大切さを問い直すとともに「いのちを守る力」の弱さを痛感させるものでもありました。今回のキーノートセッションでは、「いのちを守る活動」を実践している関係者が登壇。阪神大震災以降の関西での取り組みやコミュニティ再生・防災教育、熊本地震の被災地での学生ボランティアの活躍、防災におけるマスコミの働き、「災害科学科」で学ぶ高校生の活動や防災に対する思いなどを紹介。各地でのさまざまな防災・減災活動を振り返り、対話を通して情報共有を行いました。



モデレーターを務めたCERD所長 森一彦 教授



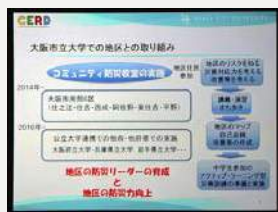
キーノートセッション会場の様子



防災・減災×ICTの可能性について紹介したCERD研究員 吉田大介 教授



東日本大震災後に設置された災害科学科の取り組みを紹介した宮城県多賀城高等学校の生徒



これからの社会を担う中学生に焦点を当てたアクティブラーニング型災害対応訓練について、実際の訓練動画を交えながら紹介したCERD副所長 三田村宗樹 教授



学術×メディア連携による減災の可能性について紹介した東北大学災害科学国際研究所 中鉢奈津子 特任助教



阪神・淡路大震災からの教訓について紹介した兵庫県立大学防災教育研究センター 室崎崚輝 センター長





RESEARCH

## 慢性疲労症候群の客観的診断に 有効なバイオマーカーを発見

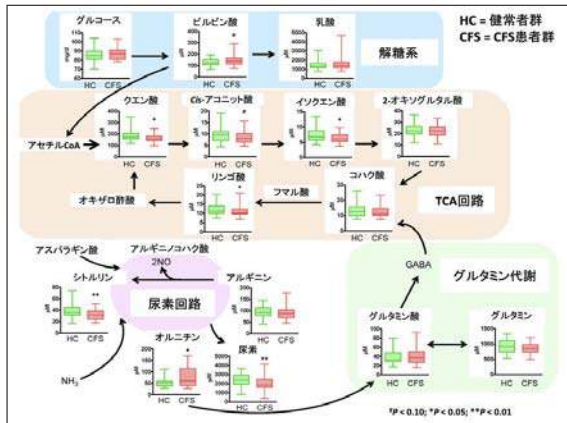


山野 恵美  
特任助教

医学研究科システム神経科学の山野恵美特任助教、理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センターの渡辺恭良センター長（本学名誉教授）と片岡洋祐チームリーダー（本学客員教授）、関西福祉科学大学 健康福祉学部の倉恒弘彦教授（本学客員教授）らのグループは、原因不明の疾患である慢性疲労症候群（CFS:Chronic Fatigue Syndrome）患者の血漿成分中の代謝物質に特徴的な変化が見

られることをメタボローム解析（代謝物質の網羅的解析）により明らかにしました。

これらの代謝物質を詳しく分析した結果、CFS患者では細胞のエネルギーを生成する回路および体内で生成された有毒なアンモニアを、無毒な尿素に変換する回路内の代謝の流れに問題があることや、血中の代謝物質の濃度が慢性的な疲労の状態を反映している可能性が示唆されました。さらに、代謝物質のうち



メタボローム解析により定量化された代謝物質の経路図（一部抜粋）

ピルビン酸／イソクエン酸、オルニチン／シトルリンの比が患者では健常者と比べて有意に高いことから、これらが慢性疲労症候群の客観的診断に有効な指標（バイオマーカー）となりうるということが分かりました。今後、さらなる疲労病態の解明や、血液検査による臨床現場での客観的なCFS診断手法の確立、治療法の開発を進めるうえでも重要な成果であると考えられます。本研究成果は、英国のオンライン科学雑誌『SCIENTIFIC REPORTS』に掲載されました。

## 話題のAR技術を教育・訓練現場で活用！ 防災教育向けARアプリを開発 オープンソースソフトウェアとして公開



吉田 大介  
准教授

都市防災教育研究センター（CERD）の吉田大介兼任研究員（創造都市研究科准教授）、三田村宗樹副所長（理学研究科教授）は、株式会社ブリリアントサービスと共に、避難所やAEDの位置などの防災関連情報や、訓練用に仮想設定した火災や土砂崩れ発生などの情報を、タブレット端末の画面上に可視化表示させる拡張現実（AR）アプリを開発しました。＊アプリはiOS（ver.9）以上のiPad端末で動作

が用意されているのか？などを現地（実際に訓練する場所）で地理空間的に認識することができます。また、災害訓練の場において現実により近い体験が可能となり、対応力の向上が大いに期待されます。

本研究において開発したアプリは、オープンライセンスとして平成29年1月6日（金）にWEB上に公開しました。本アプリは、より多くの方に使用していただくために、今後、iPhoneへの対応や、App Storeへの登録を行う予定です。

従来の防災教育向けのシステムやアプリでは、PCやタブレット端末のデジタル地図上でしか防災・災害情報を表現する方法がなく、実際の現場状況がどうなっているかについてはアプリ利用者の想像力に頼っているという部分に課題がありました。しかし、今回開発したアプリを使用し、ARによる表示機能を用いることで、対象エリアにどのような災害リスクがあるのか？ 近くにどのような防災関連施設



アプリのサンプル画像



サンプル動画は  
こちらから

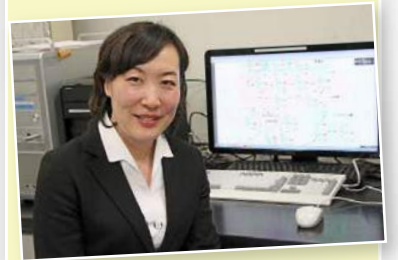
【アプリのソースコード公開サイト】  
<https://bitbucket.org/nro2dai/cerd-ar/>

### 研究者 クローズアップ



医学研究科 山野 恵美 特任助教

大学の英文科を卒業後、金融系企業で4年間勤めていた際にメンタルヘルスに興味を持ち始めた山野特任助教。会社を退職後、大学院医学研究科に進学、公衆衛生学を専攻というユニークな経歴の持ち主です。リフレッシュ法は旅行、ウォーキング、そして食べ歩き！学生時代は音楽部に所属していたとのことで、「今でもお囀子の音を聞くと当時を思い出して癒されますね」と笑顔の山野特任助教でした。



### 研究者 クローズアップ



都市防災教育研究センター／創造都市研究科  
吉田 大介 准教授

吉田准教授は教育・研究活動に使用するコンテンツ動画撮影のために、ドローンで空撮をしています。研究の一環で始めたことですが、今ではカスタマイズをするほどドローンの魅力に取りつかれているそう。「遠方に向き空撮することが、良い息抜き。今後、インフラ点検などにもドローンが活用できるか調査を行う予定です！」と目を輝かせていました。





# EDUCATION

## 「オムロン コトチャレンジ」でオーディエンス賞を受賞

平成28年7月23日(水)に、オムロンベンチャーズ株式会社 主催のベンチャー起業支援プログラム「OMRON KOTO CHALLENGE」が開催され、大阪市立大学・大阪府立大学の混成チームが本選に出場。見事にオーディエンス賞を受賞しました。

本選出場を果たした5組の中で唯一の学生チーム「iFACTory」は、大阪市立大学と大阪府立大学が実施している博士課程教育リーディングプログラム「SiMSプログラム(システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム)」を通じて出会った大学院生3名のチーム。分光技術を用いたポータブル鮮度センサをテーマにした、全ての野菜の消費

期限と賞味期限をセンシングするアイデアを構築し、決勝プレゼンテーションでは実際に開発した野菜生活促進デバイス「せん時計」を発表しました。

### 「SiMSプログラム」とは

「博士課程教育リーディングプログラム」として採択された、物質科学分野で産業界を牽引するグローバルリーダーを育成することを目的とした5年一貫制の博士学位プログラムです。企業で指導的役割を果たしてきたメンターと、世界的業績を有する大学教員による指導や支援、研究室ローテーションおよび海外留学(海外企業へのインターンシップ含む)などを経て、「産業界を牽引するグローバル研究リーダー」養成を目指します。

受賞後の記念撮影(左が太田さん)



【受賞メンバー】チーム「iFACTory」  
 大阪市立大学大学院工学研究科 太田康  
 (電子情報系専攻前期博士課程2年生)  
 大阪府立大学大学院工学研究科 長野将吾  
 (機械系専攻博士前期課程2年生)  
 大阪府立大学大学院工学研究科 保科政幸  
 (電子・数物系専攻博士後期課程1年生)

## 「医学生シムリンピックおおさか2016」で総合3位に入賞

平成28年7月31日(日)に、大阪医科大学において医療手技のオリンピックである「医学生シムリンピックおおさか2016(日本医学教育学会 主催)」が開催。これは、全国の大学の医学部生が3人一組で、実際の医療現場を想定した8つの部門(①腹部診察 ②救急患者対応 ③医療面接と基本手技 ④循環器診察 ⑤救急蘇生 ⑥呼吸器診察 ⑦医療面接と鑑別診断 ⑧腎・泌尿器診察)で臨床実習の成果を競うものです。

本学からは医学部医学科5年生の河合昂治さん、山本亜弥佳さん、外川啓介さんの

チームが参加し「医療面接と基本手技」の部門で1位に、総合成績では3位に入賞。「この経験を通して得た知識や手技を後輩たちにしっかりと伝え、チーム医療の大切さを教えていきたい!」と、熱い想いを語ってくれました。



受賞後に指導医と共に記念撮影



トレーニング風景



左から順に、山本さん、河合さん、外川さん

## 「大阪・関西での『滞在』を考える」コンテストで大阪府知事賞などを受賞

平成28年10月22日(土)、大阪府立江之子島文化芸術創造センター主催の「大阪・関西での『滞在』を考える～観光・定住促進の切り札とは?～」をテーマにしたコンテストが開催。創造都市研究科大学院生と大阪府立大学大学院生の合同グループが、最優秀にあたる「大阪府知事賞」を受賞しました。

また、工学研究科と工学部の合同の2チームが「大阪観光局長賞」と「ゲスト・芦澤竜一賞」をそれぞれ受賞しました。



左から順に、白さん、七野さん、芝さん



### 「大阪観光局長賞」 【共存する町】シェアドタウン

【受賞メンバー】  
 工学部(建築学科・都市学科)、大学院工学研究科(都市系専攻建築デザイン研究室・建築計画研究室・都市計画研究室)



### 「ゲスト・芦澤竜一」賞 【三巴の融和 住・工・商の混在するまちに関する提案】

【受賞メンバー】  
 工学部(建築学科・都市学科)、大学院工学研究科(都市系専攻建築計画研究室・都市計画研究室)

### 【受賞メンバー】

大学院創造都市研究科 七野 司(都市政策専攻修士課程2年生)、  
 芝 稔洋(都市政策専攻修士課程2年生)、白 染中(都市ビジネス専攻修士課程2年生)、  
 大阪府立大学大学院経済学研究科 観光・地域創造専攻4名





RESEARCHERS

経済学研究科 滋野 由紀子 教授

少子高齢化問題や女性の就業・子育て問題をはじめ、労働経済学・家計経済学などを専門としている滋野教授。

近年、出生率は回復の兆しを見せているものの、まだまだ微増の段階です。結婚したい、子供を産みたいと思いつつもそれが実現できなかったり、結婚退職を選ぶ人が未だ多いのも事実。いわば、個人の行動が社会システムによって阻害されている状態なのです。では、育児休業や保育所などの社会的なサポートシステムがあれば、働く女性の出産率は上がるのでしょうか？ そういった仮説について、滋野教授は主に個人データを基に統計や推計を算出し、調査を行っています。

統計の土台となるのは質問票による個人調査。約2,000名にアンケートを送り、回答が得られるのはそのうちたった3割程度…。しかし、限られた範囲ではあっても、その結果は市民の声による生のデータです。それを数値化し、実証を積み重ねていくことで「日本の政策を考える材料の一つになれば」とのこと。

「2050年頃の人口に占める高齢者の割合は4割と言われており、『若者が高齢者を支える』という従来のシステムの持続は困難です。60代の元気な高齢者が働き続けられるよう、賃金システムや労働時間などの構造の変革が早急に必要なのです」と、新しい構造を考えるソースとなるべく、調査結果を提示する滋野教授でした。



◆アナザーサイド

自身も2人の男の子の母親である滋野教授。取材中のニコニコした笑顔からは想像出来ませんが、普段は「恐いお母さん」だそう！でも休日には子どもと一緒に遊ぶことが多く、カブトムシを捕まえたりジェットコースターに乗ったりと、子ども以上に楽しんでしまふ「大人げない」と言われてしまうことも。お茶目な一面のある滋野教授でした。

法学研究科 西上 治 准教授

法学研究科教員で最も若手の西上准教授。専門は「行政法」で、主に、国または公共団体ないしその機関相互の間で権限の存否や行使に関してなされる訴訟である「機関訴訟」について研究しています。昨今の辺野古新基地建設を巡る沖縄県と日本政府との争いも、(広い意味で)この機関訴訟に含まれて論じられています。

我が国の行政法理論の基盤には、「国家法人説」、「公権論」といった19世紀のドイツ公法学の影響を強く受けた理論枠組みが存在する一方で、従来の理論枠組みでは現在の多様な日本社会に上手く適合しないケースが増えているそうです。西上准教授は、その問題を改善するため、「国家法人説」と「公権論」をバランス良く取

り扱える領域である「機関訴訟」を研究テーマとし、行政法に存在する伝統的な理論枠組みの見直しと、その再構築を目指します。

実は漫画が大好きで、所有数5,000冊は下らないだろうと豪語する西上准教授。漫画の中にも法学を学ぶうえで重要なヒントを与えてくれる作品が多くあるそうで、中でも一番のオススメは、富樫義博の『幽遊白書』。行政法を学ぶためには「二元論」(物事は相反する2つの原理、要素から構成されていると考える理論)を受け入れ、それを多様化する社会に適合するよう修正していくという感覚が重要だそうで、その入門書として学生に是非とも読んでほしいと願っているそうです。



◆アナザーサイド

大阪出身で大阪に対する愛情が深く、週1回はたこ焼きを食べるという西上准教授。大学進学で上京してから本学に着任するまでの11年、大阪弁を貫こうと強い意志を持っていたため、今でもプライベートではバリバリ(?)の大阪弁ですが、法学は東京でしか学んでいないため、法学の話になると必ず標準語になるそうです。「もちろん授業も標準語になりませう」と苦笑いを浮かべていました。

理学研究科 物質分子系専攻 品田 哲郎 教授

品田教授は、生命現象を化学で語る研究を行っている化学者です。天然から得られる比較的分子量が小さい有機分子が、生命現象を大きく揺さぶることに興味があり、最近では、それがヒトのくらしと健康に役立つようなことができれば、と考えています。

具体的な成果の一つとして、独自の生産技術を使って培養している冬虫夏草が、認知症に効果があることがわかりました。これは共同研究から得られた成果ですが、テレビ放映も2度されるなど、認知症で悩まれている方をはじめ、多くの方から注目を集めているようです。品田教授の研究室では、どの成分が効いているのかを研究し、その分子構造を解明するとともに、自然

から得られるものを合成することにも成功しています。冬虫夏草と同じ効力があるものを作り出せるわけです。今後は認知症改善だけでなく、がんを攻略する分子を開発することにも力を入れていきたいと考えています。

品田教授には、有用な分子を自分の手で探し出し、それを深く研究することで、生命の仕組みを理解することに役立つものや、世のためになるものを作り出したいという夢があります。簡単なことではないのですが、研究が続けられる大学という恵まれた環境にいますので、「本質的なものを見失わなければ何かが見えてくる」という信念のもと挑戦を続けようと思っています。



◆アナザーサイド

品田教授は10代の頃からバドミントン続けており、現在も本学バドミントン部の顧問を務めています。自身も現役だそうで、週に1、2度は部活に顔を出し、学生と一緒にプレーを楽しむのだとか。「バドミントンは研究と同じくらい奥が深くて、教えるのも難しい競技。極めるにはまだ時間がかかりそうだ」と熱く語る品田教授でした。



## 第66回銀杏祭を開催

平成28年11月3日(木・祝)～6日(日)の4日間、杉本キャンパスにおいて『第66回銀杏祭』を開催。テーマは「crazy for 遊」。「crazy for you(=あなたに夢中)」にかけ、来場者や学生全員に思い切り楽しんで、魅了されてほしいという意味を込めました。4日間とも爽やかな秋晴れに恵まれ、学生によるさまざまな企画が披露されました。



メインステージでのイベントの様子

## 平成28年度 顕彰式典を開催

平成28年11月3日(木・祝)、学術情報総合センター10階において「平成28年度 大阪市立大学顕彰式典」を開催。学部2年次生を対象とした極めて成績の優秀な学生を表彰する「学修奨励賞」には36名の学生が選ばれ、井上徹副学長より表彰を受けました。また、2名の教員が「優秀教育賞」に、4件が「優秀テキスト賞」に選ばれ、金児曉副教育後援会会長より表彰状が授与されました。



学修奨励賞受賞者の集合写真

## 大阪市立大学オリジナルどらやき“いちどら”を販売



いちどら販売ブース

平成28年11月3日(木・祝)に開催された『第15回ホームカミングデー』に、杉本キャンパスの近くに工場を持つ株式会社 長崎堂とのコラボ商品、大阪市立大学オリジナルどらやき“いちどら”を300個限定で販売。どらやきには学章の焼き印、パッケージには荒川哲男学長直筆の商品名と栗のイラストを使用。大好評を博し、販売開始後4時間で売り切れとなりました。

## 平成28年度「科研費」審査委員の表彰式を開催

平成28年11月17日(木)、平成28年度「科研費」審査委員の表彰式を開催。今回表彰を受けたのは、柏木敦教授(文学研究科)、井上慎教授(理学研究科)、幸田正典教授(理学研究科)、岡崎和伸准教授(都市健康・スポーツ研究センター)の4名で、荒川哲男学長より表彰状が手渡されました。平成28年度は約5,700名の第1段審査(書面審査)委員の中から268名が表彰されています。



表彰式後の集合写真

## 日本学士院賞受賞記念講演会を開催



宮本憲一名誉教授

平成28年12月22日(木)、杉本キャンパスにおいて宮本憲一名誉教授(商学部)の日本学士院賞受賞記念講演会を開催。講演会には多くの学生・卒業生・教職員が参加しました。戦後公害史の歴史的教訓を生かし、地球環境を維持するためにはどのような経済と社会を作らなければならないのか、宮本名誉教授の50年にも及ぶ研究に対する熱い思いが語られました。

## 大学院生プロボクサーの坂本真宏さんがタイトル戦で健闘!

平成28年11月23日(水・祝)、工学研究科前期博士課程機械物理系専攻1年生でプロボクサーでもある坂本真宏さん(六島ジム所属)が、大阪市立住吉スポーツセンターで開催されたWBOアジアパシフィックフライ級王座決定戦に出場。坂本さんは12ラウンドを見事に闘い抜きましたが、判定は0-2(114-114、112-116、112-116)で惜しくも敗れました。試合会場では学長や同窓会関係者が試合を見守り、坂本さんのナイスファイトに惜しみない拍手を送りました。



試合の様子  
(左が坂本真宏さん)



## 理学研究科の大学院生らが台湾師範大学を訪問



訪問時の  
集合写真

平成28年9月23日(金)、理学研究科教務系専攻の大学院生7名と教員4名が、国立台湾師範大学を訪問。本交流プログラムは坪田誠教授と、国立台湾師範大学の劉祥麟(Hsiang-Lin Liu)物理学系長の「大学院生を中心とした研究交流の機会をもっと増やしたい」という熱意から実現しました。ワークショップや実験室見学などを通じて研究に関する意見交換を行い、有意義な時間となりました。

## 第13回高校化学グランドコンテストを開催

平成28年11月5日(土)・6日(日)の2日間、第13回高校化学グランドコンテスト(通称:グラコン)の最終選考会を開催。今年では過去最多となる71チームのエントリーがあり、一次審査を通過した61チームがポスター発表、10チームが口頭発表を行いました。審査の結果、市川学園市川高等学校「人工光合成の研究 酸化タンタル/タンタル板を使った二酸化炭素からギ酸の生成と可視光応答」が文部科学大臣賞を、愛知県立明和高等学校が大阪市長賞を授与しTaiwan International Science Fair 2016、International Science Youth Forum 2016に招待されることが決まりました。



文部科学大臣賞  
市川学園市川高等学校

## 「Open Faculty 2016 文学部の逆襲」を開催



シンポジウムの  
様子

平成28年11月12日(土)、グランフロント大阪ナレッジキャピタルで文学部公開イベントを開催。シンポジウムでは「文学部は役にたたないのか?」「生涯学習時代とリベラルアーツ」と題した二つのパネルトークが行われ、現在の日本社会における文学部の存在意義や担うべき役割について大学内外の視点から検証しました。若手研究者や学生による最新研究紹介も実施され、市民やメディアの関心を集めました。

## オープンナガヤ大阪2016を開催

平成28年11月12日(土)・13日(日)の2日間、大阪にある複数の長屋の改修・活用事例を一斉公開するイベント「オープンナガヤ大阪2016」を開催。生活科学研究科の藤田忍教授・小池志保子准教授が「暮らしびらき」をテーマに企画し開催しているものです。今年では過去最多となる45カ所の長屋や町家が参加し、多くの建築ファンが現地を訪れました。



豊崎長屋の  
様子

## ラッシュ・プライズ2016で「若手研究者部門アジア」を受賞



左から辰己久美子  
さん、ミジュ・キムさん  
(韓国)、ユー・チェ  
ンさん(中国)

平成28年11月18日(金)、英国大手化粧品メーカーLush主催のラッシュ・プライズ2016の受賞者が発表され、本学医学研究科 分子病理学 修士課程2年生の辰己久美子さん「若手研究者部門アジア」を受賞。この賞は動物を用いずに効果的な評価方法を開発する研究者たちをたたえるもので、辰己さんの他には、韓国から1名、中国から1名の合計3名が受賞し、ソウル(韓国)で開かれた授賞式でトロフィーが贈られました。

## 「流通論特講6」でショッピングセンターを視察

商学部 田村晃二准教授担当の「流通論特講6」(一般社団法人日本ショッピングセンター協会の寄附講座)では、毎回現場から講師をお招きし、最前線の知識を享受いただくとともに質疑応答を通じて双方向的な授業を行っています。昨年11月には、それまでのSCIに関する講義(座学)を踏まえ、天王寺ミオの現場視察研修を実施。普段入ることができないバックヤードなどを見学しました。



施設見学の  
様子



### 第15回ホームカミングデーを開催しました

平成28年11月3日(木・祝)、大阪市立大学では、大阪市立大学同窓会及び大阪市立大学教育後援会との共催により第15回ホームカミングデーを開催しました。ホームカミングデーは本学を卒業された同窓生の方々が学部や学科、年代を超えて母校に集い親睦を深めていただくことを目的に毎年開催されているものです。

オープニングのあいさつでは荒川学長より「わが母校が輝きを増すために」というタイトルでお話があり、引き続き、学術情報総合センターにおいて顕彰式典が執り行われました。

午後からは、学術情報総合センターにおいて、本学OBでもある相良暁氏(商学部・昭和58年卒、小野薬品工業株式会社代表取締役社長)による特別講演「創薬におけるイノベーションへの挑戦」を開催しました。小野薬品工業(株)の社訓として「いままでにない革新的な医薬品を届ける」という強い意志を持ち、個々の力を結集して全力で挑戦することが、私たちに託された使命である『熱き挑戦者たれ』という精神につながる」という話に、多くの来場

者が熱心に耳を傾けていました。

講演会の後、北食堂において学長主催ウェルカムパーティーが開催され、荒川学長からのあいさつ、児玉全学同窓会会長の乾杯の音頭のもと、約150名近い同窓生、学生、教職員が集まり、賑やかに交流が深められました。



荒川学長のあいさつ



顕彰式典



相良暁氏の特別講演



ウェルカムパーティーの様子



応援団の演舞

### Facebook「大阪市立大学アラムナイ」を発信しています!

平成28年4月より、大阪市立大学に関する情報発信のツールの1つとして、同窓生や保護者のみなさまにFacebook「大阪市立大学アラムナイ」をスタートし、好評をいただいています。大学で開催されるイベントの様子や大学の季節折々の風景など、大学を身近に感じていただけるよう、バラエティ豊かな情報をお届けしています。お時間のある時に是非ご覧ください。

<http://www.facebook.com/OsakaCityUnivAlumni/>

大阪市立大学と同窓生をつなぐコミュニティサイト



大阪市立大学アラムナイ  
<https://www.facebook.com/OsakaCityUnivAlumni/>

### 大阪市立大学夢基金の寄附目的が選択式になりました!

平成29年1月より、寄附者のみなさまの意向をより反映できるよう、寄附の目的(使途)を選択していただけるようにいたしました。大学の基盤となる教育・研究に係る整備、充実のための事業費(大学の基盤事業充実費)をはじめ、目的別に課外活動施設の充実、全天候型グラウンドの整備、グローバル人材の養成、社会連携、医療・保健推進の6項目を設定しています。

詳細はパンフレットまたは本学Webサイトをご覧ください。

詳しくは



問い合わせ先 大学サポーター支援室 TEL:06-6605-3415 E-mail:yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp





## 就職支援室からのお知らせ

いよいよ本格スタート!

### ❖ 学内企業セミナーを開催します!!

ブース形式 / 予約不要 / 入退場自由

2018年卒の採用広報活動が3月1日より開始。本学では、それに合わせて企業セミナーを開催します。会場は高原記念館と田中記念館の2会場、18日間で495社が参加予定です。各企業の人事担当者から、求める人材や業務内容についての説明を聞き、今後の採用選考に必要な準備や自身の方向性を固める場としてぜひ活用してください!

**【日時】平成29年3月1日(水)～28日(火) 11:00～16:00**

**【場所】杉本キャンパス 高原記念館および田中記念館**

※土曜・日曜・祝日および、21日(火)は開催しません。  
※3日(金)、22日(水)～28日(火)は、高原記念館のみの開催です。

※参加企業等の詳細は、本学Webサイト・全学ポータルサイト・就職支援室前掲示板等でご確認ください。

## 教育後援会からのお知らせ

### ❖ 教育後援会 主催 新入生保護者懇談会 開催のご案内

**【日時】平成29年5月27日(土)  
13:00～16:30 [予定]**

**【場所】杉本キャンパス  
全学共通教育棟**

詳細は、教育後援会Webサイト  
(<http://www.osaka-cu.com/>)を  
ご覧ください!



## オリジナルグッズのご紹介

### ❖ 新しい市大グッズが仲間入り **NEW!**

杉本キャンパス生協「シェリー」、阿倍野キャンパス生協「リンク」にて絶賛発売中!

市大グッズ

検索



パスケース

IDケース

ポストカード

名刺入れ

- ポストカード1枚 ……¥90(税込)
- ポストカード5枚セット…¥400(税込)
- パスケース(本革) ……¥2,200(税込)
- IDケース(本革) ……¥2,480(税込)
- 名刺入れ(本革) ……¥3,280(税込)
- ※本革は最高級栃木レザーを使用

今後も新しいグッズを開発予定です。  
お楽しみに。

大阪市立大学広報誌

**CITY**  
×  
**UNIVERSITY** Vol.23

発行：公立大学法人 大阪市立大学  
企画・編集：法人運営本部 広報室  
デザイン協力：desk  
発行日：2017年2月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は  
大阪市立大学 法人運営本部 広報室  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



**大阪市立大学**  
OSAKA CITY UNIVERSITY

#### 杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

#### 阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

#### 梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>